

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K14021

研究課題名(和文) 熟練幼稚園教師の国際比較研究—日本・中国・アメリカ—

研究課題名(英文) International Comparative Study of Experienced Preschool Teachers

研究代表者

林 安希子(Hayashi, Akiko)

明治大学・ガバナンス研究科・助教

研究者番号：50789716

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：1)各国の熟練幼稚園教師の教授法の特徴は何か：「余裕が出てきた」「言葉より身体を使うようになった」「子どもと向き合えるようになった」などの答えを得た。これらの特徴は3か国で共通していることがわかった。これは各国での教授法の違いを報告していた今までの研究を踏まえると、意外な結果であり、面白い結果である。2)熟練幼稚園教師に至る過程に何が貢献しているのか：師弟関係、現場経験、ワークショップ、園内研修など、色々な要因が挙げられた。こちらは各国で特有の傾向が見られている。中国では師弟関係・評価システムが、日本では現場経験・園内研修、アメリカではワークショップ・大学院での学びが多くあげられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果により、日本文化・社会に適した幼児教育政策、教職課程・教師向けのワークショップ等への示唆が出来ると思う。また、本研究の重要な学術的意義として、「熟練教師・教師の変化」の研究分野では、教師着任初期2～3年間で学生が実際の教師へと移行期と捉えられていることが多いが、教師着任初期5年間で移行期の概念を拡げる必要があることを示したことが挙げられる。

研究成果の概要(英文)：I am finding many similarities in what my informants in the three countries have to say about characteristics of less and more experienced teachers. At the same time I am also finding that structural differences among the three countries impacts notions of teaching expertise. The analyses of these findings have implications for conceptualizing the relationship between teaching experience, expertise, and careers trajectories. These findings provide a foundation for understanding the sequence and pathways of development over the first decade of teaching of tacit, embodied teaching skills.

研究分野：教育社会学

キーワード：国際比較研究 幼児教育 教師の熟達化 ビデオを使ったインタビュー法 教員養成

## 1. 研究開始当初の背景

「熟練教師・教師の変化」の問いに対しては様々な分野で研究が行われている。教育学の分野では、教職課程を卒業した学生が実際の教師へと移行する過程の研究があげられる(Feiman-Nemser, 2001; Ingersoll & Strong, 2011)。多くの場合、教師着任初期 3 年間に焦点を当てている。教師になってから受ける指導技術向上の研修に関する研究も盛んに行われている(Ball & Cohen, 1999; Lewis, 2009)。これらは研修そのものに焦点を当てているため、熟練教師になる過程において、研修以外の要素には焦点を当てていない。心理学の分野では、教員 1 年目と熟練教師の認知の違いを探った研究が行われ(Berliner, 1988; Schempp et al. 1998)、教員 1 年目と熟練教師の認知の仕方がどのように違うかは解明されつつあるが、どのような過程を経てその違いが生まれるのかは見えてこない。研究方法としては、多くの先行研究が、量的研究方法を用いている。文化人類学的視点から、質的研究法を用いた研究は少ない。また、教員 1 年目と熟練教師の比較の際は、一時点で 2 グループでのサンプリングが行われることが多く、同じ教員の二時点での縦断研究はごく稀である。かつ、幼児教育者に焦点を当てた「熟練教師・教師の変化」の研究は多くはない。これらの研究動向は日本と諸外国と共に同じである。

## 2. 研究の目的

本研究は、5 年目から 20 年目の変化、熟練幼稚園教師になっていく過程そのものに焦点を当てる。「熟練幼稚園教師」を日本・中国・アメリカの 3 カ国の国際比較から検討するもので、2 点の研究課題解明を目的としている。(1) 各国の熟練幼稚園教師の教授法の特徴は何か、(2) 熟練幼稚園教師に至る過程に何が貢献しているのか。

## 3. 研究の方法

ビデオを使ったインタビュー調査。Tobin, Hsueh, and Karasawa が行った研究、Preschool in Three Cultures Revisited (2002) で作成されたビデオを使用した。日本・中国・アメリカの 3 カ国各 2 都市(東京・京都・上海・雲南・アリゾナ・ハワイ)計 6 幼稚園で撮影され、各 20 分、それぞれ 4 歳児の教室に焦点を当て、典型的な 1 日の園の様子がおさめられている。

6 人の幼稚園教師: 前述のビデオの中の担任教師へインタビュー調査。15 年前に撮影されたビデオを見せ、自らの教職歴 5 年目だったビデオ撮影時 2002 年と教職歴 20 年目となった現在 2017 年とでは、「何がどう違うか」または「何がどう同じか」、「その変化に何が貢献したか」を質問した。

106 人の幼児教育関係者: 4 人から 8 人の熟練教師と園長で構成するグループインタビュー調査。さらに、大学関係者など、幼児教育専門家へのインタビューも実施した。これらのインタビューでは、ビデオを見せた後に、「この教師についてどう思うか」、「なぜそう思うのか」を質問し、幼児教育者の考える熟練教師の定義に迫る。また、後進を指導する立場の熟練教師・園長、幼児教育の専門家に、「熟練教師になるために何が必要だと考え、何を提供しているか」を

質問した。

平成 29 年度から平成 30 年度にわたって 3 か国(アメリカ・日本・中国)で 6 人の担任教師に加え、他の熟練教師・園長・幼児教育専門家と合計 112 名にインタビューを行った。

#### 4 . 研究成果

##### (1) 各国の熟練幼稚園教師の教授法の特徴は何か

日本・中国・アメリカで実施したインタビューで「余裕が出てきた」「言葉より身体を使うようになった」「子どもと向き合えるようになった」などの答えを得た。その結果、これらの特徴は 3 か国で共通していることがわかった。これは各国での教授法の違いを報告していた今までの研究を踏まえると、意外な結果であると言え、面白い結果である。本研究で得られた熟練幼稚園教師の教授法の特徴は、他の分野の熟練者の研究と通じているものがある。今後、熟練幼稚園教師から得られた結果を、教師一般、そして、教師に限らず、他の熟練者に関する研究と照らし合わせて、議論を展開する。

##### (2) 熟練幼稚園教師に至る過程に何が貢献しているのか

師弟関係、現場経験、ワークショップ、園内研修など、色々な要因が挙げられた。こちらは各国で特有の傾向が見られている。中国では師弟関係・評価システム、日本では現場経験・園内研修、アメリカではワークショップ・大学院での学び、が多くあげられた。

日本・中国・アメリカの国際比較である点は、本研究の特色である。「熟練教師・教師の変化」に焦点を当て研究され、構築されてきた知識の、どの側面が文化・国特有で、どの側面が文化・国を超えたものであるか、という熟練教師・教授法・教師の変化の共通性と多様性の特徴を明らかにすることが可能となった。文化固有の側面と普遍的(職共有)の側面を解明することで、日本文化・社会に適した幼児教育政策、教職課程・教師向けのワークショップ等への示唆が出来るようになる。また、日本人研究協力者の多くが「上手く教えることが出来るようになるには、最低 5 年間はかかる」と述べた。この結果を踏まえ、本研究の重要な示唆として、「熟練教師・教師の変化」の研究分野では、教師着任初期 2~3 年間で学生が実際の教師へと移行期と捉えられていることが多いが、教師着任初期 5 年間で移行期の概念を拡げる必要があることが挙げられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Akiko Hayashi	4. 巻 Vol. 50 (3)
2. 論文標題 Going Deeper in Video Cued Multivocal Ethnographies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Anthropology & Education Quarterly	6. 最初と最後の頁 356-360
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Akiko Hayashi
2. 発表標題 Beyond Lesson Study in Japanese Early Childhood Education
3. 学会等名 World Education Research Association（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Hayashi
2. 発表標題 Experience, Presence, and The Development of ECEC Professional Expertise
3. 学会等名 Reconceptualising Early Childhood Education（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiko Hayashi
2. 発表標題 The Development of Expertise in Preschool Teachers in Three Cultures: China, Japan, and the United States
3. 学会等名 Daxia Forum, East China Normal University, Shanghai, China.（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akiko Hayashi
2. 発表標題 A Video-Cued Diachronic Analysis of Preschool Teaching Expertise in Three Countries
3. 学会等名 American Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akiko Hayashi
2. 発表標題 Beyond Lesson Study: Professional Development Through Mentoring in Japanese Early Childhood Education
3. 学会等名 Comparative International Education Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------